

【学校だより】

ほさかっこ

穂坂っ子

【学校教育目標】

心豊かで
かしこく
たくましい子ども

平成29年11月17日 NO.9 穂坂小学校長

社会に生きる一人の人間として…！（ならぬことはならぬものです）

日に日に秋が深まり、露寒の季節となりました。この時期の子どもたちは、授業や学校行事そして学級内の人間関係にも慣れ、最も心が安定していると言われていています。つまり、一年間で心も身体も人としての魅力も大きく成長し、充実した学校生活を送れる時期なのです。この時期を大切に、子どもにとって意義ある二学期後半にしたいものです。

学校生活の基本単位である学級は、子どもたちにとって一番楽しい場所であり、心の落ち着く場所です。また、それぞれの子どもたちが他者を理解し、他人への思いやりを育てたり、自らの力を伸ばしたりして、一人の人間としての人格を培い、目指すべき人間に育っていく場所です。

このように目指すべき人間に育っていくために、自分と他者を大切に、尊重するといった教えは、古くからありました。江戸時代の会津藩に「日新館」という藩士の師弟が学ぶ学校がありました。そこでは、日新館に入学する前の子どもたちが身に付けるべき「人としての心構え」として「什の掟」を訓示しました。

それは、【一、年長者の言うことに背いてはなりません。二、年長者にはお辞儀をしなければなりません。三、虚言を言うことはなりません。四、卑怯な振る舞いをしてはなりません。五、弱い者をいじめてはなりません。六、戸外で物を食べてはなりません。……ならぬことはならぬものです。】という教えです。

不易と流行ではありませんが、時代とともに馴染むものもあれば、馴染まないものもあります。しかし社会において、その場所、その時に、守らなければならないことがあります。家庭には家庭のきまりが…、学校には学校のきまりが…、地域（公）には地域（公）のきまりがあります。大切なことは、目指すべき人間に育てていくという願いのもと、子どもたちに自分と他者を大切に尊重し、社会のルールを守り行動する態度を育てていくことです。



シリーズ◎

褒め言葉の効用！

さりげない一言が、あたたかい！

「…………。お父さんは、感動したよ。」
「…………。お母さんは、助かったよ。」
「…………。先生も、やる気が出たよ。」

子どもをほめる時、「You（ユ一）メッセージでほめる（子どもを主語にしてほめる）」と「I（アイ）メッセージでほめる（自分を主語にしてほめる）」の二通りを無意識に使っています。双方を比べると、Youメッセージは少し距離感を感じさせます。Iメッセージのほうが親近感を感じ、気持ちが伝わりやすくなっています。上記を例にしますと、「あなたは字が上手だね。」「掃除をがんばってるね。」「君の考えはなかなかいいね。」は、Youメッセージです。I（アイ）メッセージでほめると「字が上手。お父さんは感動したよ。」「掃除をがんばったね。お母さんは助かったよ。」「いい考えだね。先生もやる気が出たよ。」となります。どちらもほめ言葉ですが、素直に受け入れられるのは、I（アイ）メッセージだと言われていています。



ならぬことは、ならぬものです